

目で見ると
経済

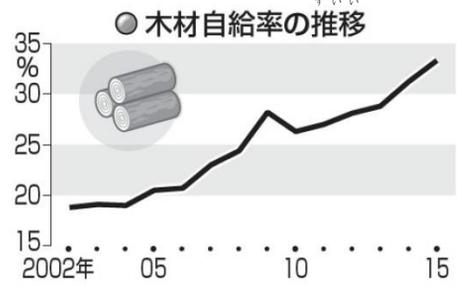
木材自給率の回復が続いている。国産材の利用拡大や輸入の減少を背景に、2015年の自給率は前年より2・1%高い33・3%となり、5年連続で上昇した。技術が向上して合板材での国産利用が増え、木質バイオマス発電施設向けなどの燃料材が拡大したことが寄与している。

木材自給率5年連続上昇

合板、燃料材で国産拡大

国内生産の主な内訳は、合板用材が14年に比べて5・5%増、燃料材が59・8%増と大幅な拡大となった。今後は20年の東京五輪に向け、関連施設での国産材活用を広げていけるかどうかも課題となりそうだ。

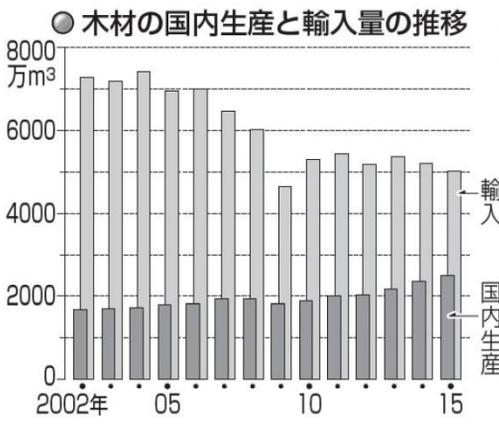
が、輸入材に押されて02年には18・8%まで低下した。14年は26年ぶりに30%台を回復していたが、15年も引き続き自給率が上昇した。木材の国内生産が2505万8千立方メートルと6年連続で増加する一方、輸入量が5024万2千立方メートルと2年連続で減少したことが反映された。



● 木材の国内生産の主な内訳の増減

※前年比増減率

用材	増減率 (%)
製材用材	-1.7%
パルプ・チップ用材	3.1
合板用材	5.5
シイタケ原木	0.6
燃料材	59.8
全体	6.0



①2002年以降、日本の木材自給率はどのように変化していますか。

[]

②2015年の木材自給率は何パーセントぐらいでしょうか。

[]

③国内生産で特に増えている「燃料材」とは、何のことでしょうか。

[]

2016年10月29日 朝刊

年 組 名前

(小学校高学年・中学校 社会)